

Exhibition  
THE HAKONE OPEN-AIR MUSEUM

## 新収蔵コレクション展 ～朝倉文夫を中心に～

2008年11月15日(土)～2009年3月31日(火) アートホール



### 概要

【タイトル】  
新収蔵コレクション展 ～朝倉文夫を中心に～

#### 【趣旨】

本展覧会は、新収蔵となる朝倉文夫による猫の彫刻5点を中心に、林武、木内克を初めとする朝倉と同時代を生きた作家たちや、同じく新収蔵となる、スウェーデンを拠点として国際的に活躍する中島由夫の作品などを展示します。

明治十六年（1883年）、大分県に生まれた朝倉文夫は東京美術学校彫刻科を首席で卒業し、翌年の文展で最高賞を受賞。その技術と観察眼に裏打ちされた写実主義的作風で、彫刻家として不動の地位を確立しました。また後進の指導にも精力的に取り組み、その後の日本彫刻界の発展に多大な貢献をしました。肖像彫刻で評価の高い朝倉が、人物像と同様に心血を注いだのが動物像です。なかでも猫をこよなく愛し、多数の作品を残しています。

一方、中島由夫やイタリア在住の長谷京治の作品などからは、写実にとらわれない自由な息吹が伝わってきます。近代日本の写実描写に徹した表現と現代の表現を、比較してご覧下さい。

#### 【会期】

2008年11月15日(土)～2009年3月31日(火)

#### 【会場】

彫刻の森美術館 アートホール

#### 【出品点数】

27点



朝倉文夫「眠り」1945年



朝倉文夫「のび」1947年

## 朝倉文夫略歴

1883（明治16）年	3月1日、大分県直入郡竹田（現：大野郡朝地町）に渡辺要蔵・キミの三男として生まれる。
1891（明治24）年	朝倉家の養子となる。
1902（明治35）年	竹田中学校を中退。上京して兄・渡辺長男（彫塑家）の下に寄寓する。
1903（明治36）年	東京美術学校彫刻選科入学。そのかたわら太平洋画研究所に通いデッサンを習う。
1906（明治39）年	三海将銅像制作に応募し、《仁礼中将像》で第一等となる。
1907（明治40）年	東京美術学校卒業。卒業制作は《進化》。東京下谷区谷中に居を構える。
1908（明治41）年	第2回文展に《闇》を初出展。二等一席を受賞。以後連続受賞を重ねる。
1910（明治43）年	第4回文展に《墓守》を出品。
1916（大正 5）年	文展審査員となり、以後、帝展審査員を歴任する。
1921（大正10）年	東京美術学校教授に就任。
1924（大正13）年	帝国美術院会員に選ばれる。
1927（昭和 2）年	第1回朝倉塾展覧会を開催。（1943年・第15回まで続く）
1928（昭和 3）年	帝展改組を提唱するが容れられず、帝国美術院会員を辞す。
1935（昭和10）年	旧家屋とアトリエを改造して朝倉彫塑塾とする。（現・朝倉彫塑館）
1948（昭和23）年	文化勲章を授与される。
1964（昭和39）年	4月18日、急性骨髄性白血病にて死去。 享年81歳。

## <朝倉文夫について>

20世紀初頭、芸術の都パリにはヨーロッパはもとより世界中の芸術家が集いました。日本からも最先端の芸術を学ぼうと荻原守衛や高村光太郎、佐伯祐三、藤田嗣治など多くの芸術家たちがこぞってパリを訪れました。自国の洋画や彫塑の歴史の浅さを痛感しながらも日本人作家たちが西洋に挑んだ苦闘の跡は、その後の日本の芸術界に影響をあたえました。

朝倉文夫もパリに憧れた一人でしたが、結局フランスを訪れることはありませんでした。アカデミックな技術をもとに、自身の作品を極限まで追い求めることに成功しています。作品からは、対象と真剣に向き合った朝倉のオリジナリティが感じられます。

また、朝倉文夫の子どもたちも父と同じく芸術家となりました。長女の摂は舞台芸術家、次女の響子は彫刻家として活躍しています。本展では、次女・響子の作品を特別展示しています。

## <猫に遊ぶ>

朝倉文夫は、人物像とともに、牛、犬、猿、兎など多くの動物像を作りました。その中でもとりわけ猫が多いのは、若い時から猫が好きで、多いときには自宅に15～6匹の猫を飼っていたからです。いつも身近に猫がいて、猫の身のこなしや、飼われながらも野性味を失わない神秘性に魅力を感じていました。その一挙一動を興味と愛情をもって観察し、自由な気持ちで猫の様々な姿態を制作しています。

## 「ギャラリーショップ企画」

彫刻の森美術館内のギャラリーカフェ&ショップでは、ギャラリーショップ企画として特別ブースを2007年5月より設けております。

当企画は、優れたデザイン、伝統美、匠の技、環境に優しい商品など、ミュージアムショップの視点で選んだブランドとのコラボレーションによる情報発信型のショップ企画です。来館者ご自身のお土産に購入される方も多く、季節に合わせ新しい商品を紹介することで、リピーターの方々にも楽しんでいただいております。2008年10月までに、5つの企業とのコラボレーションを行いました。

### 《現在開催中》

#### 第6弾 《POP-UPカードギャラリー》

期間：2008年10月11日（土）～2009年1月25日（日）

内容：MoMAカードを中心としたPOP-UPカード・グリーティングカードの展示・販売。

あわせて、スノードーム コレクションも紹介。



彫刻の森美術館オリジナルスノードーム



#### POP-UP カードギャラリー

グリーティングカードの中でも、開くと立体的な世界が広がるPOP-UPカードは、国や世代を問わず人気があります。特に新年やクリスマスにカードを送る習慣のある欧米では、毎年様々なデザインのカードが発表されています。

MoMA（ニューヨーク近代美術館）の新作カードを中心に、京都福井朝日堂や建築家の茶谷正洋氏の手がけるカードなど約100種類を紹介します。



#### スノードーム コレクション

世界中で愛され、コレクターも多いスノードーム。誕生には諸説ありますが、19世紀前半にペーパーウェイトとして生まれ、1889年のパリ万博でエッフェル塔を手のひらサイズの小さなガラスの球に閉じ込めたのが始まりといわれています。

国内外でお土産として販売されている様々なスノードーム約100種類を紹介いたします。また、12月下旬（予定）からは、彫刻の森オリジナルスノードームも登場します。



#### 商品価格（税込）

- |                     |            |
|---------------------|------------|
| ・彫刻の森美術館オリジナルスノードーム | 1,890円（予定） |
| ・POP-UP カード         | 294円～      |
| ・若手作家ポストカード         | 157円～      |
| ・スノードーム各種           | 294円～      |
| ・飛び出すしかけ絵本など        | 1,470円～    |